

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023

シンポジウム

「がん患者に寄り添った、かかりつけ薬剤師・薬局を目指すために

～「かかりつけ薬剤師・薬局のがん薬物療法に関する業務ガイドンス」の活用～」

### ガイドンスに記載されている有効事例紹介

総合メディカル（株） そうごう薬局 天神中央店

本田 雅志

抗悪性腫瘍薬を頻繁に受け付けていない保険薬局の薬剤師が、適切に業務を遂行できるための一助として「かかりつけ薬剤師・薬局におけるがん薬物療法に関するガイドンス」が公開された。ガイドンスの二章では、過去 5 回（2016 年～2021 年）の日本臨床腫瘍薬学会学術大会にて発表された事例から、保険薬局でのがん薬物療法において参考となるものを抜粋して掲載した。選定された事例は発表者各位の多大なるご理解・ご協力のもと、改めて発表スライド並びにツールや資材のご提供頂いたものを紹介している。事例は第一章と連携し「Q1 患者情報の収集管理において重要なことは？」「Q2 処方監査の標準化を行う手段は？」「Q3 処方監査時に臨床検査値をどのように活用するか？」「Q4 服薬指導時に標準化を行う手段は？」「Q5 継続的なフォローアップに必要なことは？」「Q6 薬薬連携を円滑に行うために、どのようなツールの活用方法があるか？」「Q7 保険薬局と病院の間で連携を深める方法は？」の 7 つのカテゴリに分類して掲載している。ガイドンスでは 22 事例を掲載し、そのどれもが外来がん治療患者への貢献を示す素晴らしい発表ばかりではあるが、限られた時間の関係上、シンポジウムではその中の一部をピックアップしてご紹介したい。

ワーキンググループが発足し、ガイドンスの作成を進めている間にも、専門医療機関連携薬局の認定制度開始やオンライン服薬指導、リフィル処方箋の解禁、電子処方箋の導入に向けた準備など、保険薬局を取り巻く環境は日々目まぐるしく変化している。本ガイドンスについても、がん治療の進歩や医療情勢の変化などに応じて、柔軟に進化し続けていく必要がある。そのためにも、また外来がん治療に対する保険薬局の在り方を正しく示すためにも、私たちの取り組みや成果を、今後さらに積極的に発表することが求められると考える。